

令和4年5月12日 文教厚生委員会 教育長挨拶

私の方から2点お話をさせていただきたいと思います。

1点目は4月の委員会でも報告をしました教員の欠員に関することでございます。その時も御説明いたしましたが、県外で働いておられる現職の教員等を対象とした採用試験である特別選考試験を5月4日に実施いたしました。24名の方が応募されて、全員受験されたという状況でございます。結果は、今月18日に本人あてに合否を通知いたしますが、たくさんの方に応募いただき、ゴールデンウィークにしてくれてよかったという声も複数の方からいただいております。厳正なる選考を行い、合格された方には、来春を採用予定とする試験ではありますが、お一人お一人に声をかけて、年度内、または今すぐにでもこちらで教壇に立てないか、確認してまいりたいと思います。

しかし、それで全ての欠員が解消するわけではございません。欠員があること、本来常勤職員を配置するところに非常勤職員を配置することによって、授業はできるけれども、授業時間以外は働き手がない、生徒指導、進路指導といった校務分掌について、他の先生方にしわ寄せがきているという実態がございます。そこをサポートするために教員籍ではありませんが、事務補助職員等を採用していただいて、現職の先生方のしわ寄せを少しでも緩和したいと考えております。教員ではございませんので、任用は市町村で行っていただいて、県の方から10分の10の補助を行います。その財源につきましては、もともと教員を任用して給与支払うための予算が未執行となっておりますので、それを当面流用させていただくこととしております。完全ではありませんけれども、少しでも教員の方の事務負担を減らしたいと考えております。また、引き続き、今年度中の教員確保に向けてあらゆる方法で努めていきたいと考えております。

もう1点は、高校総体についてであります。2週間後、今月の26日から県の高校総体が始まるというスケジュールになっております。現在の3年生は高校生活の全てをコロナ禍の中で過ごしたという初めての学年です。入学時から様々な活動を制限された中で、いろいろな工夫をしながら部活動にあたってきたわけでございます。そういった成果を発表する最後の場面が高校総体となります。なんとしてでも、生徒たちが万全の状態で開催に臨める環境を作っていく必要があると我々は感じております。しかしながら、このところ部活動に起因すると思われるクラスターの発生がございます。幸い大会まで2週間ありますので、今であれば回復して大会には臨めますけれども、今後、練習あるいは試合本番で大きなクラスターが発生するようなことがあってはならないと考えております。体調管理、大会運営方法など、今一度心新たに思い直して、みんなで大会を成功させようということを一昨日、全ての県立学校の校長に対して私の自筆の手紙で送りました。各学校では十分な備えをしてくれることと思います。やはり換気対策、消毒、三密の回避といった基本的なことをしっかりやる、その上で健康管理が大事ですけれども、無症状の場合もありますので、できるだけ事前の検査といったことも行って、大会に臨みたい、なんとしても今の3年生が達成感を味わうことのできる大会にしたいと思っておりますし、大会に参加することが大事だと思っておりますので、高体連等の競技団体とよく詰めながらやっていきたいと考えております。感染自体は止められない、仕方がないこととございますけれども、できることを怠っていたということになるとそのことに非常に悔いが残るということになりますので、できることは全てやろうと考えて取り組んでおります。どうぞ御理解のほどよろしく願いいたします。